



2002年3月期連結決算内容

株式会社 ニチレイ

2002年5月17日

お問合せ先:

広報IR室 マネジャー

柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



円安・狂牛病問題で事業環境厳しく減収・営業減益に

2002年3月期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	01/3	02/3(E)	02/3	02/3対01/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,600	5,730	5,581	-18	-0.3%
営業利益	185	139	140	-45	-24.6%
経常利益	154	115	116	-37	-24.5%
当期純利益	40	51	40	0	1.0%

1. **売上高** 02/3(E)・・・2002年3月期見込・・・は2001年11月13日に発表したものの低温物流は流通型を中心に増収、食品は水産品の数量絞り込みと一部で単価下落が影響し減収に

2. 営業利益

食品のうち加工食品は円安や畜産物の疫病などによる原料高騰の影響から減益に、一方で単品別収益管理による効率使用が進み商流費が下期以降は売上高の伸びを下回り前年比でも減少

低温物流では流通型が新設事業所の立上げ時期の収支改善が遅れて減益に、期後半にはBSE(牛海綿状脳症)の影響で全般に荷動きが停滞し貨物の回転率が低下、収益圧迫要因に

01/3には退職給付債務一括償却の財源に充てるための販売用不動産の売却など特殊要因があり、01/3比45億円営業減益のうち不動産だけで20億円の減益

3. 経常利益

金融収支は01/3比13億円改善

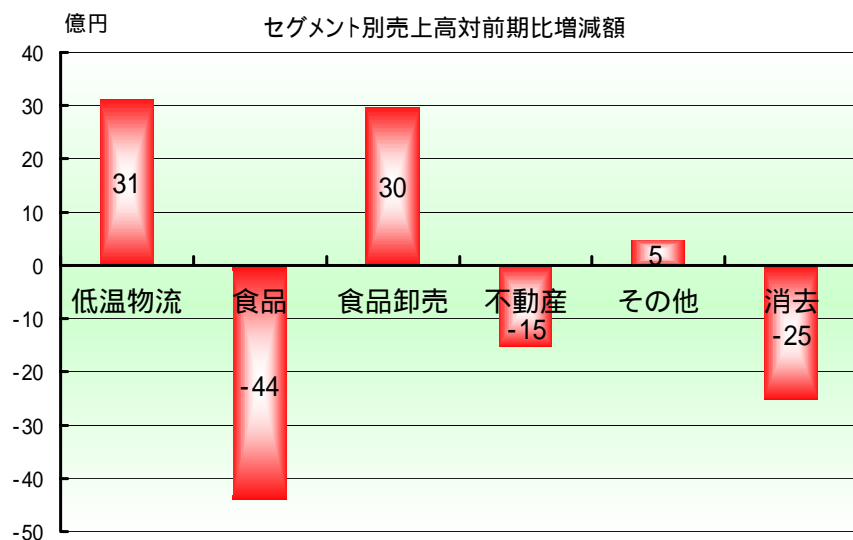
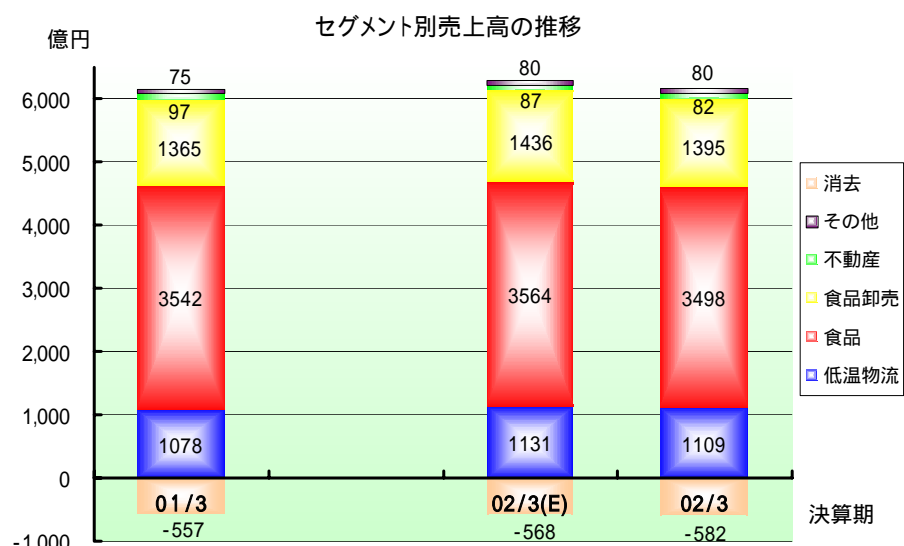
4. 当期純利益

生産体制再編に伴う生産工場移転損失15億円、老朽・不採算な事業所閉鎖損失13億円に加え投資有価証券の売却損・評価損18億円なども発生、一方01/3の退職給付会計基準変更時差異償却額と退職給付信託設定益の差し引き88億円の損失は無くなり当期純利益は01/3比横ばいに



数量を絞込んだ水産品の売上減少が影響し減収に

セグメント別売上高と対前期比増減の要因



1. 低温物流

流通型の事業所増加などで、3%の増収

2. 食品

水産品は大きく価格が下落した鮭鱒をはじめ全般に市況が軟調、取扱数量の絞込みに加え、一部で単価も下落して減収に

3. 食品卸売

取引先大手流通の店舗数増加や外食の取引先拡大などにより増収

4. 不動産

01/3に退職給付債務一括償却の財源として販売用不動産を売却した特殊要因があり、01/3比は減収に

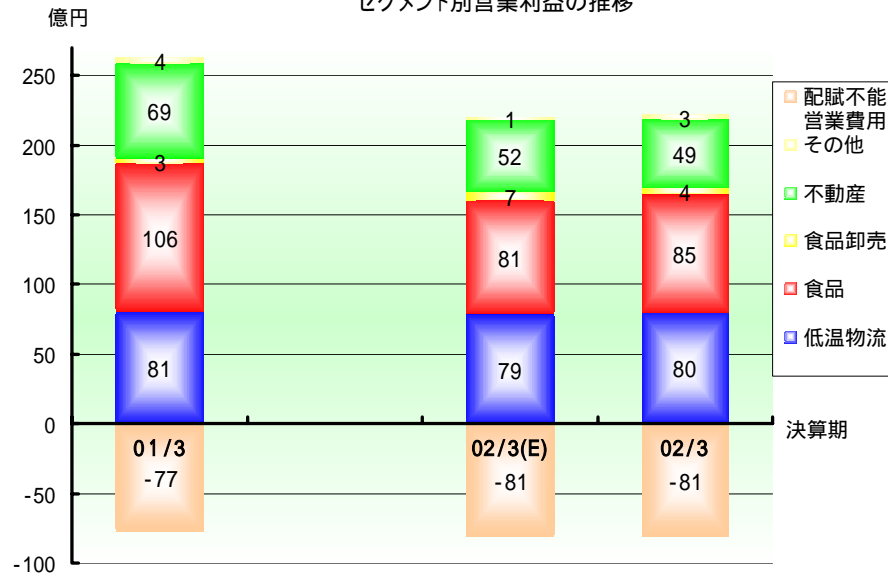
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



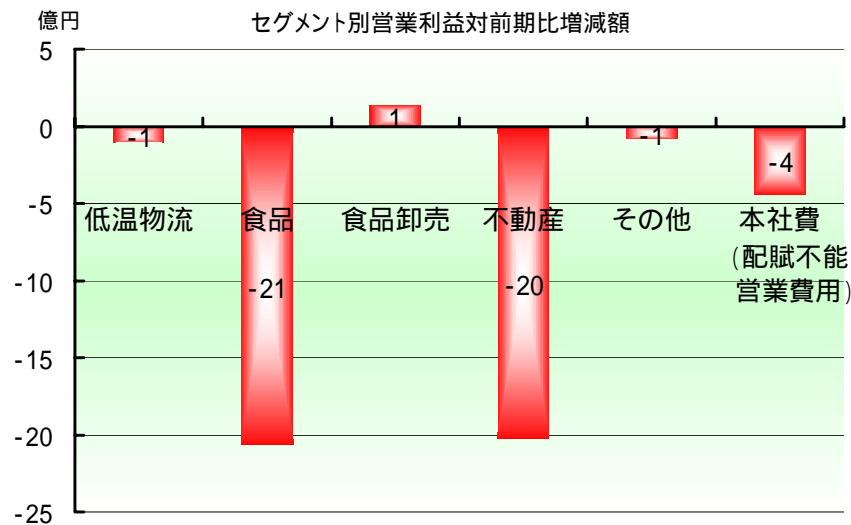
円安・チキン疫病で原価上昇の加工食品が減益要因

セグメント別営業利益と対前期比増減の要因

セグメント別営業利益の推移



セグメント別営業利益対前期比増減額



1. 低温物流

欧州の事業が好調だが、流通型は新設事業所の初期費用が計画を超過して01/3比減益に、保管賃単価は横ばいが続く

2. 食品

加工食品は円安や疫病による中国チキンの輸入停止などでチキン商品や冷凍野菜の原価が上昇し減益、一方商流費増加は下期にブレーキがかかる、米国「てんぐ」社の牛肉原料高も減益の要因、水産品は中間期にはえび市況の急速な下落などで大幅減益となったが下期には取り戻して通期で01/3比増益に

3. 食品卸売

増収効果のほか01/3に発生した情報システム導入の一時費用が無くなる

4. 不動産

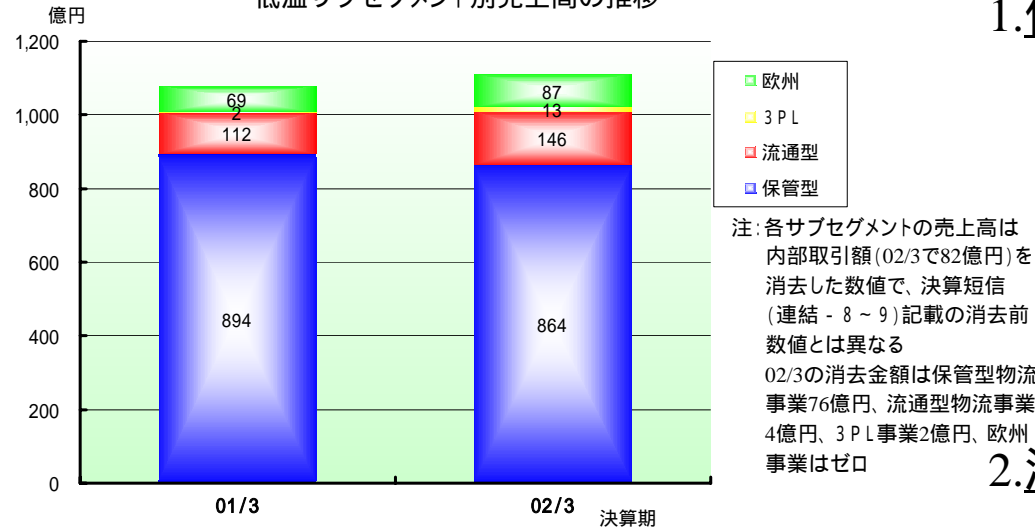
01/3に退職給付債務一括償却の財源として販売用不動産を売却した特殊要因があり、01/3比は減益に



低温物流事業は欧州の冷蔵倉庫と輸配送が好調

低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



1. 保管型

BSE問題が発生した昨年秋以降、輸入チルドビーフの入出庫が減少、疫病により輸入停止が続いた中国チキンの搬入減少も響き、都市部の冷蔵倉庫で貨物回転が低下し減収に、保管賃単価は横ばい

冷蔵倉庫での輸配送貨物集荷に注力、アイスクリーム・冷凍食品の共同配送拡大などに引き続き取り組む

2. 流通型

仙台に新設した事業所は、立上げ時期の収支均衡に至る期間が当初計画よりも長くなり減益要因に、現在は収支が均衡

その他の事業所は、期中に移転した2拠点を含め順調に推移し採算も改善

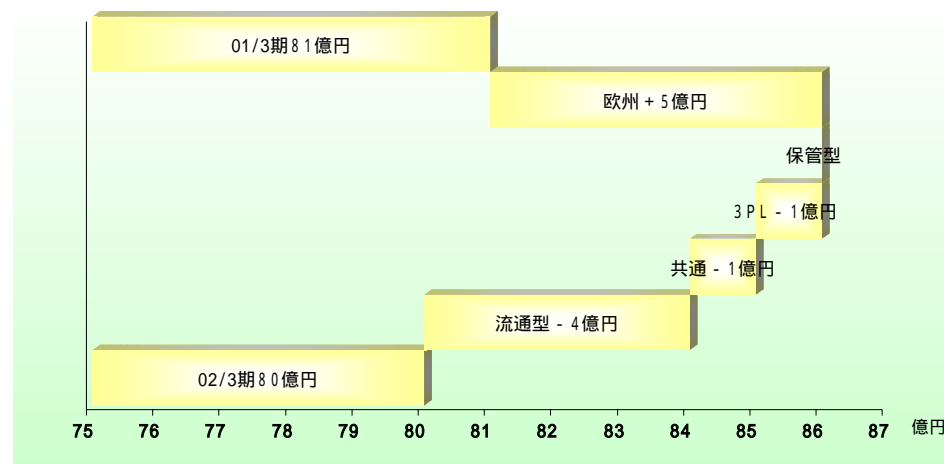
3. 3PL

新規案件の受託獲得へ向け営業活動中、事業の本格展開はこれから

4. 欧州

冷蔵倉庫と輸配送事業を展開、グループ企業間の連携強化や高採算業務への集中により増収・増益を達成

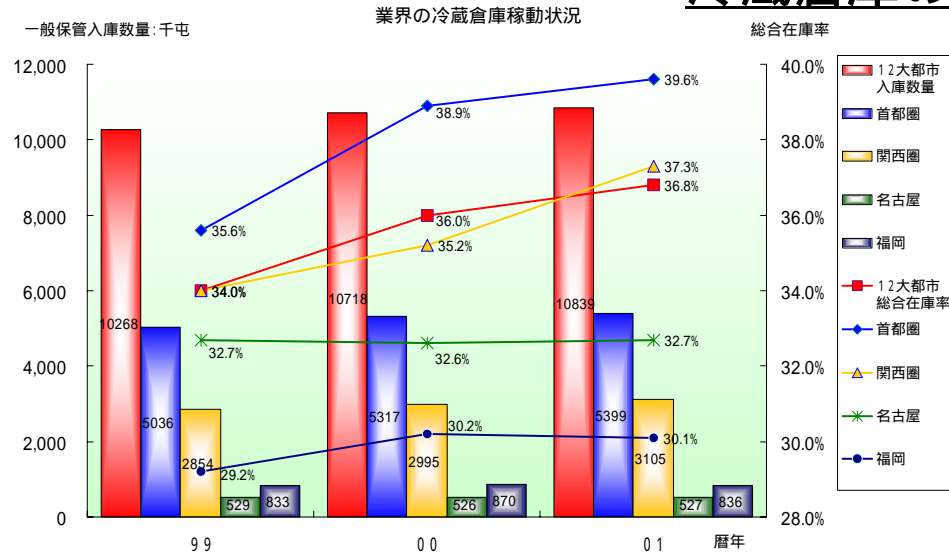
低温物流事業営業利益の対前期比増減要因





BSE・中国チキンの輸入停止で畜産物の荷動き停滞

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

1.業界の状況

入庫数量は各地区とも微増、首都圏と関西圏では総合在庫率が改善

2.当社の状況

BSEが国内で発見された昨年秋以降、輸入チルドビーフが入庫・出庫共に大きく減少、総合在庫率は地区ごとにばらつきがあるもののトータルでは若干の改善

3.業界の設備能力

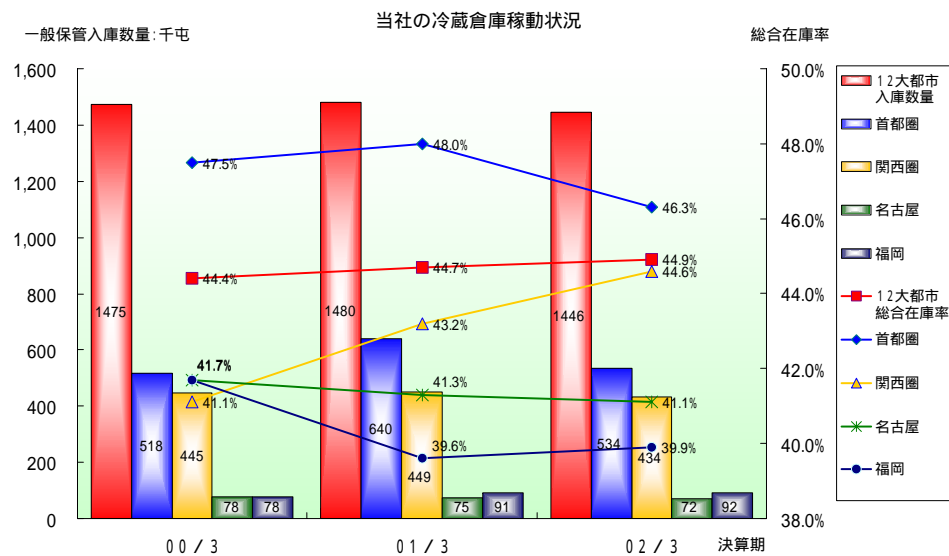
引き続き横ばい、設備投資は一服状態

冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2002年1月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 万トン	01/1比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	109	137	-2	13%	全国
マルハグループ	64	72	1	7%	全国
横浜冷凍	35	54	1	5%	全国
東洋水産グループ	24	37	-1	3%	全国
日本水産グループ	25	35	-1	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
キューソー流通システム	19	10	0	1%	全国
中央冷凍	8	9	-1	1%	関東
川西倉庫	6	9	0	1%	関東、関西
ヒューテックノオリン	7	9	0	1%	全国
東京豊海冷蔵	5	9	0	1%	関東
二葉	4	9	0	1%	関東
兵食	6	9	0	1%	関西
港湾冷蔵	6	8	-1	1%	関東、関西、九州
辻野	6	7	0	1%	東北、関東
山手冷蔵	6	7	0	1%	関東、中部
その他	1,426	628	2	57%	
合計	1,774	1,095	-2	100%	

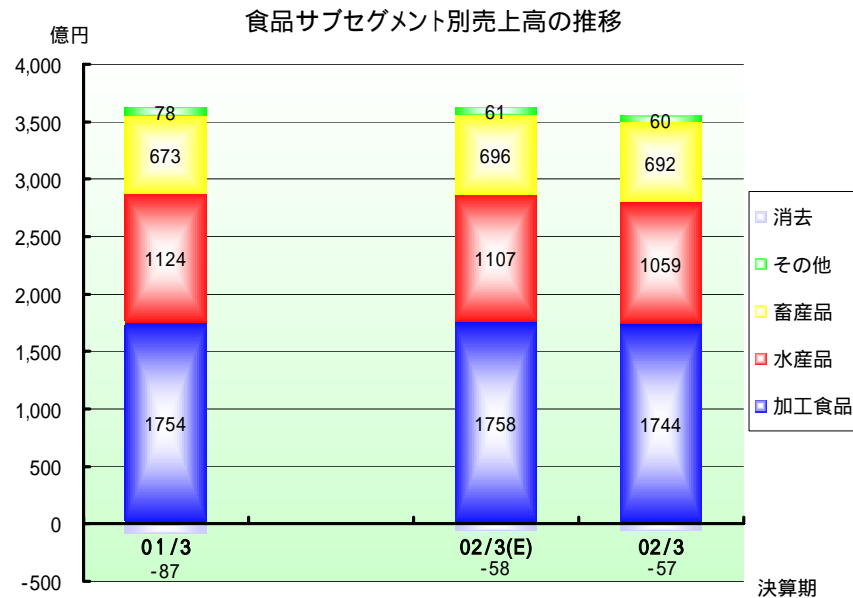
(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)





円安や鶏肉相場の上昇が加工食品の減益要因

食品事業の対前期比増減の要因



1.加工食品

一部の生産子会社で行っていた製品の地場販売を取り止めたため減収となるが、ニチレイ単体の加工食品は3%の増収、調理冷凍食品も3%の増収を確保

円安や中国からの輸入停止などで主力のチキン商品や冷凍野菜の原価が上昇し収益を圧迫、02/1からチキン商品の値上げを実施

商流費は単品別収益管理による効率使用が進み下期以降は売上高の伸びを下回り前年比も減少に

2.水産品

全般に市況が低迷するなかでリスク回避のため取扱数量を絞り込み採算は維持

営業利益は下期のえびの好調やBSEでギフト需要が増えたかにも寄与して01/3比増益

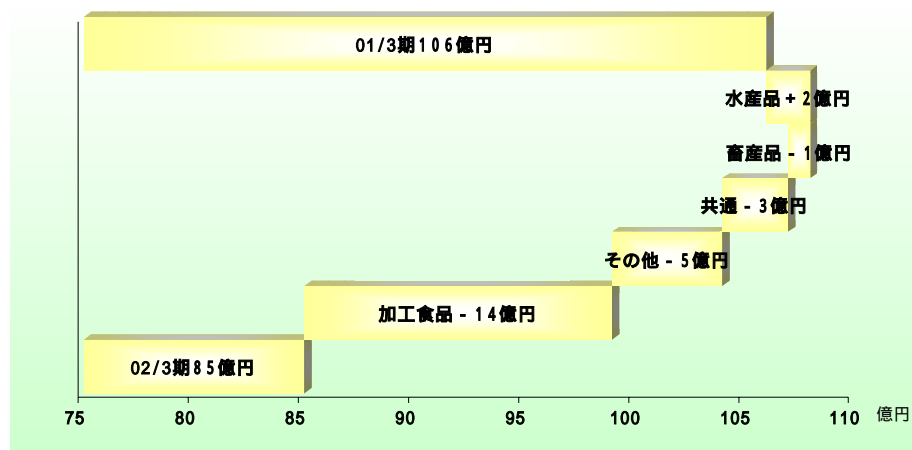
3.畜産品

売上高は3%増収、「特長ある素材」も拡大したが、牛肉の縮小や得意の中国チキンの輸入停止が響き、営業利益は01/3比減益に

4.その他

「てんぐ」は原料牛肉の高騰が響く

食品事業営業利益の対前期比増減要因





米飯が牽引して戦略カテゴリーは01 / 3比8%増収

ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

01 / 3比2%伸長、調理冷食は3%伸長、新商品寄与と業務用が拡大

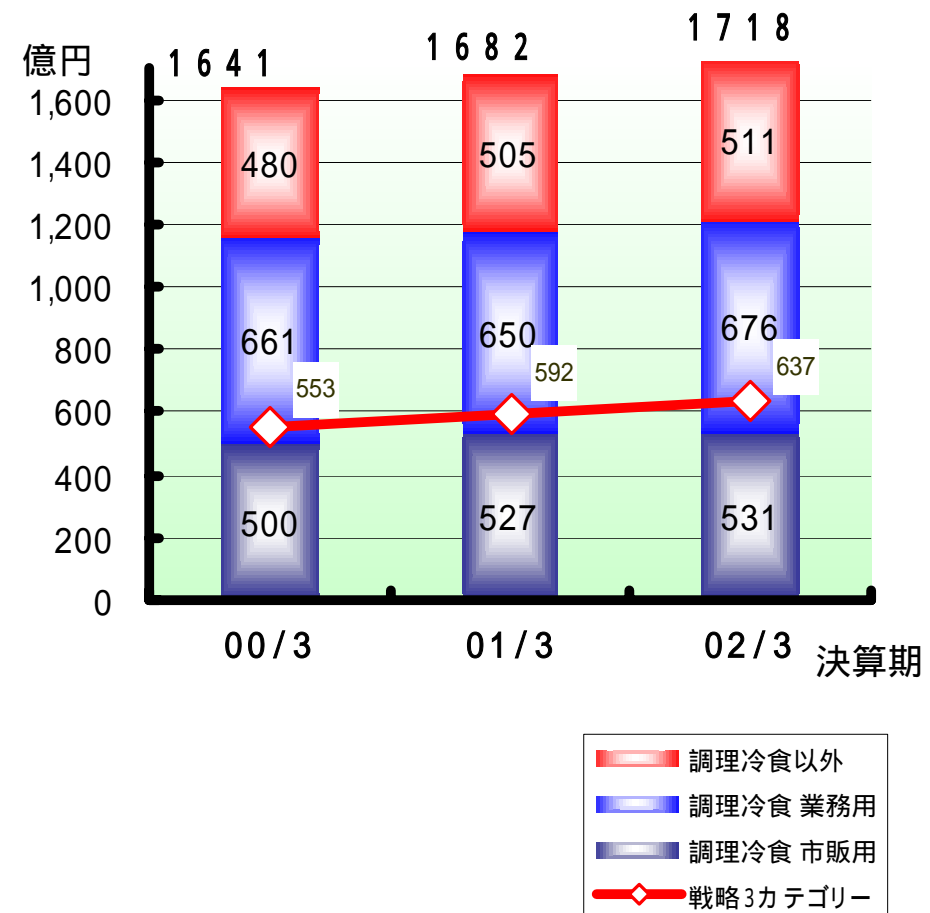
2. 調理冷食

市販用:「本格炒め炒飯」のヒット、「逸品和菜」シリーズも好評だがBSEの影響から牛肉関連製品の落ち込みもあって01 / 3比では1%伸長に

業務用:惣菜売り場向け「特撰Deliコロッケ」シリーズが好調、米飯類の拡大もあって01 / 3比4%伸長

戦略3カテゴリー:チキン・米飯・中華の戦略3カテゴリーは01 / 3比8%伸長、米飯は市販用「本格炒め炒飯」と供給能力を増強した業務用が原動力となり01 / 3比24%伸長、チキンは原料価格上昇のため02 / 1から値上げを実施

冷凍食品売上高の推移





有利子負債は中計削減ペースを上回るが目標未達に

02 / 3期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

【主な要因】

科目	01/3	02/3	増減
(資産の部)			
流動資産	1,309	1,278	-30
固定資産	2,367	2,254	-112
資産の部合計	3,677	3,533	-143
(負債・資本の部)			
流動負債	1,571	1,646	74
固定負債	1,200	1,000	-199
負債の部合計	2,772	2,647	-125
少数株主持分	11	10	-1
資本の部	893	876	-17
(有利子負債)	1,727	1,674	-52
科目	01/3	02/3	増減
(設備投資額)	97	90	-6
(減価償却実施額)	140	135	-4

設備投資と減価償却費の差額による45億円減のほか、投資有価証券が期末時価評価差額の減と売却によって83億円減少

一年以内返済の社債・長期借入金172億円を流動負債へ振替え買掛債務は49億円減少

期末時価の低下でその他有価証券評価差額金が51億円減少

有利子負債は中期経営計画の削減ペースを上回っているが営業キャッシュフローの減少から

02 / 3の年初目標額1,630億円には未達

02 / 3の設備投資の主なもの
仙台南LSC(TC併設冷蔵倉庫)新設

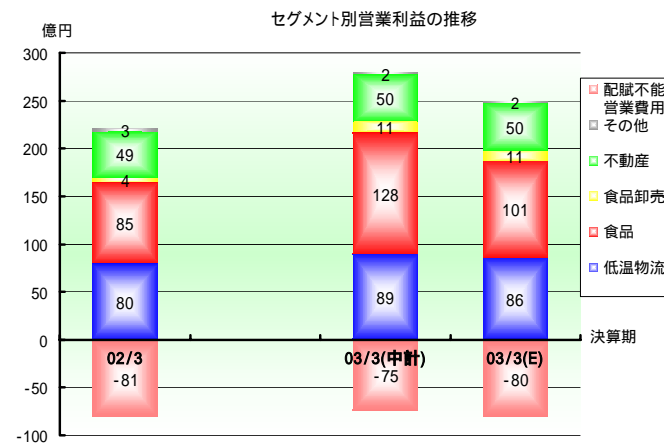
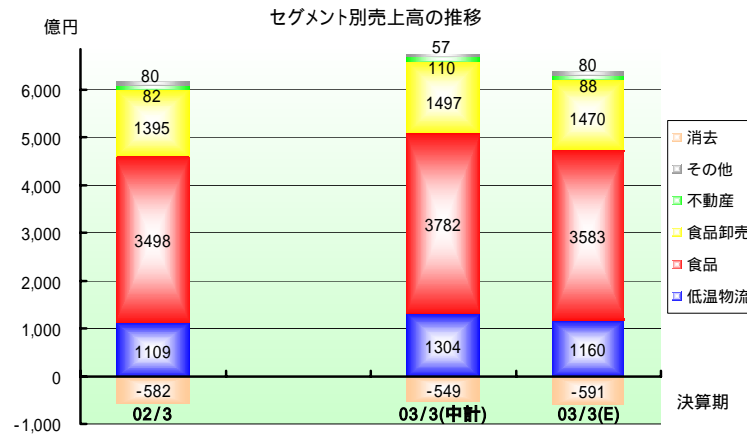
天満ビル(大阪市)新設…継続中
欧州の物流センター増設…継続中
チキン・米飯など冷食生産設備



03 / 3 は中計目標に未達ながら増収・増益を見込む

2003年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	02/3	03/3中計	03/3(E)	03/3(E)対02/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,581	6,200	5,790	208	3.7%
営業利益	140	205	170	29	21.3%
経常利益	116	175	144	28	23.2%
当期純利益	40	85	72	31	77.3%



1. 低温物流は流通型が新センター立上げ時課題を克服し収支が改善、3PLも業績に寄与
2. 食品は加工食品の採算が改善し増益に、畜産品も環境の好転を見込む
3. 事業所の閉鎖・移転による特別損失が縮小し、当期純利益は大幅な増益に
4. 円安など事業環境の変化から中期経営計画の目標には乖離が、中計最終の04 / 3業績目標も改めて見直し、02 / 9中間決算発表時まで公表へ



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従い、これら業績見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- 偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。